

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600124		
法人名	有限会社 聚楽臺		
事業所名	グループホーム じゅらくだい (和・げんき)		
所在地	〒839-0862 福岡県久留米市野中町914番地		TEL 0942-48-3160
自己評価作成日	平成 22年 11月 26日	評価結果確定日	平成 22年 12月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		TEL 093-582-0294
訪問調査日	平成22年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは久留米市の中心部に位置している。近くには高良川が流れており石橋文化センターや公園、スーパーなどがあり散歩や買い物に適した環境である。立地の利便性を活かし、いつまでも元気で過ごして頂きたいという思いから「元気に過ごす住まい」という理念を掲げている。窓からの景色では車や人の往来を見ることができ、外の動きや季節を感じる事ができる。また病院が隣接しているため利用者様にも安心して過ごして頂ける。近くの歯科とも連携させて頂き月2回利用者様への口腔指導をお願いし、肺炎予防や異常の早期発見に努めている。また利用者様に応じた口腔ケアの方法など指導していただき継続したケアを行っている。居住が2、3階のため不安のないよう毎月の避難訓練も実施しており、災害対策にも力をいれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

久留米中心市街地のご真ん中に、3階建て2ユニットのグループホーム じゅらくだいがある。隣接の病院とは、3階の回廊で繋がり、利用者の健康管理は24時間365日、万全の体制である。「元気に過ごす住まい」を理念の柱として、管理者と職員は、利用者や家族の要望に応え、介護計画を作成し、日々の暮らしが、自由で、充実したものになるように支援している。町内会に加入し、回覧版配りやゴミ当番に参加し、老人会から漬物や野菜の差し入れ、実習生の受け入れ等、地域との交流も始まっている。利用者にとって、外出、買い物が便利で、活き活きとした生活を送れる環境である。また、災害対策は、テーマを設け、毎月、避難訓練を実施し、利用者や家族が安心して暮らせるように職員全員が努力する様子は、見ていて実に心強いものがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	街の中心に位置している利便性を活かし、地域で元気に過ごして頂きたいという思いから「元気に過ごす住まい」という理念を掲げている。理念達成に向けた目標を掲げ全職員で取り組んでいる。	利用者が元気で活動的に過ごせるようにとの願いを込め「元気に過ごす住まい」という理念を掲げ、具体化するために更にそれぞれのユニットで取り組みの方向を目標として上げている。理念が実践出来ているか、職員間で声をかけ合い確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板やゴミ当番に参加させて頂いている。老人会の方からお漬物やお野菜を頂いたり、行事に招いていただいたりしている。	自治会、老人会に加入し、地域の活動に参加している。幼稚園児と一緒に近くの公園に行き、ゲームをしたりプレゼント交換をしたりと交流もしているが、利用者の高齢化により最近では機会が少なくなっている。ホームヘルパー養成講座等の実習生の受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度よりデイサービス事業が開始となり、在宅で生活されている方にとっても、利用しやすい環境となっている。パンフレットを作成したりし、地域に働きかけている。職場実習などの受け入れも行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。活動や取り組みについての報告を行い助言を得ながら改善に努めている。議事録は全てのご家族に送付している。	家族代表、老人会会長、民生委員、市役所職員、地域包括支援センター職員等をメンバーに開いている。利用者の情報や活動報告や、ホームの課題に対する意見を積極的に聴き、取り組みに対し具体的にアドバイスをもらう事も多い。ボランティアの募集や体験学習の受け入れも、メンバーの協力を得て、実現に向け取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホーム内の課題や問題など随時相談を行っている。地域密着型サービス事業所の交流会にも参加を行っている。	ホームの取り組みや「じゅらくだい新聞」等を持参し、ホームの実情を積極的に伝えると共に、課題について相談し、アドバイスを受けている。市と地域密着型サービス事業所交流会と合同で研究発表会を開催する等の取り組みも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1F玄関は施錠しているが、各ユニットは施錠せず、行き来できるようにしている。スタッフ間でも身体拘束に関する勉強会を行い、意識の向上に努めている。	身体拘束が利用者にも与える身体的、精神的弊害について理解を深める為勉強会を開いている。ホームの前が、幹線道路であり、安全のためやむを得ず一階の玄関は施錠している。二階、三階のグループホーム間の行き来は自由に出来る。職員は、利用者の外出傾向を把握し、さりげなく見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を実施し、職員の意識の向上に努めている。職員間で情報交換を行いながら、日頃から注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料やビデオを用いて勉強会を行い、理解を深めている。	資料やビデオを用い、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する学習会を開いている。現在制度を利用している利用者はいない。入居時全員に説明するなどの取り組みまでには至っていない。	必要な時に必要な支援が出来るように資料を揃え、職員間の理解を深めると共に、入居時には利用者、家族に説明する等、積極的な情報提供への取り組みを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書は十分に説明を行い、ご家族や利用者様の不安がないよう疑問点に関してはその都度説明を行い、安心して入居していただけるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの苦情や不満に対しては話し合いを行いながら改善に努めている。ご家族へ対しても苦情相談窓口等の説明を行ったり家族会や会議、面会時には意見やお話を伺うよう努めている。	運営推進会議や家族会で積極的に意向を聴くように努めている。家族会では家族の率直な意見が聞けるよう職員が席を外すこともある。家族の来訪時には、意見や要望を尋ねている。出された意見は、ミーティングで話し合い、運営に反映できるよう努力している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談などで職員の意見や提案が聞けるよう努めている。個人面談を実施している。意見や提案に関しては話し合いを持ち、反映できるよう努めている。	施設長、管理者は定期的に職員との面接の機会を設け、意見や要望を聴いている。時差出勤など職員の要望を実現したものも多い。また、利用者の一番身近にいる職員の意見をサービスに反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行い要望や意見を聞いている。人員を多く配置し超勤がないよう努めているが必要時には手当ての支給を行っている。給与水準についても徐々に取り組みを行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用において性別や年齢を理由に排除することはなく、本人の思いや介護への熱意などを考慮している。	採用に当たり、性別や年齢等の制限は設けていない。定年制もなく、意欲のある人は働き続ける事が出来る。別棟の広い休憩室で、自由な時間を過ごすことが出来るよう休憩時間も確保されている。資格取得を目指す職員には、勤務のローテーションも考慮され、介護職員が介護に専念出来るよう料理専門の職員をもうける等働きやすい職場である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護員の方から勉強会を行って頂いたり職員に対する教育に努めている。	講師を招き人権に関する勉強会を行い、知識の共有をはかっている。外部の研修にも参加し、参加者からの伝達研修会を開催している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外での研修や勉強会に参加し、スタッフ間で共有している。新任職員に対する勉強会にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム部会や交流会に参加させていただき情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と面会できる機会を設けさせて頂き、不安がないよう説明をさせていただいたりお話を伺ったりしている。柔軟に対応できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を少しでも解消できるよう、十分に話し合い、説明を行っている。ご要望に関しても柔軟に対応できるように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて提案をさせていただいている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・料理など利用者様と一緒にできるよう努めている。利用者様から色々なことを学ばせて頂き、家族であるという思いで関係が築いていけるよう努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関わりを積極的に持つよう努め、ご相談をしたり、要望を伺ったりとできるだけ意向に沿えるよう心掛けている。面会時には状況報告を行い、関係を築いていけるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方、知人の方など来られた時はゆっくと過ごして頂けるよう配慮している。ご家族とも相談しながら自宅へ帰られたりなどの支援も行っている。	利用者の馴染みの理・美容院への同行等、これまで大切にしてきた関係が途切れることがないよう、家族にも協力を得て支援している。老人会の方が、野菜や漬物を持って、ホームに立ち寄り、話をしていられるなど、継続的な交流が行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、孤立することのないよう関係作りに努めている。状況に応じて居室や席の配置の検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係が保てるよう出来ることは柔軟に対応させていただくようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との関わりのなかで思いの把握に努めている。受け持ちを中心にご家族からお話を伺いながら意向を理解しようと努めている。	利用者の意向が表出しやすいように、利用者本位に経験や相性なども考慮し職員の受け持ちを決めている。それぞれのユニットの目標に利用者とのふれ合いや、寄り添いながら、心を通わすことを上げ、職員間で情報を共有しながら、利用者の意向の把握に努めている。困難な場合には家族の協力を得ることもある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族からお話を伺い、これまでの生活歴や習慣などの把握に努めている。またセンター方式を利用し情報収集を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の出来ること出来ないことを意識しながら現在の状態が維持できるよう働きかけている。日々の申し送りで現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人様の要望や意向の把握に努めながらプランに反映できるよう努めている。	運営推進会議、家族会議、家族の来訪時に得た家族の要望や、利用者との日々の関りの中での情報を職員間で話し合い、計画に反映させている。3ヶ月ごとに介護計画を見直し、現状に即した計画になるように努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はプラン内容の把握に努めている。個人記録にはプランに沿った記録と日々の様子、気づきを記入するように心掛けている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ、外泊外出・ご家族の宿泊など柔軟に対応している。理美容サービスや鍼灸マッサージなども希望に応じて行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や老人会の方に来ていただいたりと地域との関わりを持たせていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関してはご本人様やご家族の希望に沿って継続した治療が受けられるよう支援している。	オーナーが経営する病院と併設し、本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医への受診支援をしている。受診結果は「受診ノート」に記録し、情報の共有をはかっている。24時間医師と連絡がとれる体制が整えられ、適切な医療を受けられる環境にある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職員を配置し、日々の健康管理を行っている。気付き等は看護職員に相談を行ったり、受診したりして対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、病院関係者と常に情報交換を行ないながら退院に向けての支援に心掛けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化対応指針について説明を行い、同意を得ている。状況に応じて、事業所で出来ること出来ないこととお話させて頂いている。	重度化した場合や、終末期の対応について指針を作成し、入居時に、利用者、家族に説明し同意を得ている。利用者の状況に変化が見られた時にはその都度、家族や関係者間で話し合いをし、納得して最期を迎えられるよう支援している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、職員間で見直し、確認を行っている。急変時の対応や観察項目などの勉強会を実施している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施している。久留米市の緊急告知ラジオを設置し、ハザードマップを貼り避難場所が分かるようにしている。消防署立会いのもと訓練を実施し水消火器の使用法についても指導していただいている。	毎月夜間を想定した避難訓練を実施している。ホームの居室区域が2階と3階部分にあり、階段やエレベーターの他に非常階段を設け、隣接する病院と渡り廊下で行き来出来るようにしている。地域の住民も参加しての避難訓練の実施や非常時の食料や毛布等の備蓄はしていない。	非常災害時には地域住民の協力は不可欠である。特に居室が2階3階部分にあるという造りは避難誘導に人手を要するため、住民も参加しての訓練の実施や非常食、飲料水や毛布等の備蓄が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様への言葉遣いや対応について振り返り、職員間での意識の向上に努めている。	人前で誘導の声掛けをしたり不適切な対応があった時は、職員間で声を掛け合っており、注意し合うようにしている。利用者の写真を掲載したホームの新聞は、利用者、家族の承諾を得、配布先を限定するなど、個人情報の保護にも細心の注意を払っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に応じた自立支援を心掛け、利用者様が選択・決定できるような関わりをもてるよう心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに応じたケアが行えるように心掛けている。利用者様の希望にはすぐ応じられるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、お化粧をされたりと利用者様に応じて支援を行っている。希望の理美容室があれば行けるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、下膳など利用者様と一緒に出来るよう心掛けている。職員も一緒に食卓につき、食事を楽しんでいる。料理会を実施しており、献立や食材を共に考えたりしている。	食材は業者に依頼しているが、利用者の好みや苦手なものを伝え、利用者の意向を取り入れたメニューになるようにしている。月に一度は料理会を計画し、食材の下拵えから一連の過程を利用者と職員と一緒に調理している。職員と一緒に食卓を囲み、さり気なく必要な介助をしている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は随時記録し、把握に努めている。水分補給に為のゼリーを作ったり利用者様に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士の方に定期的に来て頂いており、利用者様に応じたケアを継続して行っている。食事形態や口腔ケアの方法など相談させて頂き、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、利用者様の排泄パターンの把握に努めている。出来るだけトイレでの排泄が出来るような支援を行っている。	排泄チェック表を用い、利用者の排泄パターンを把握し、声かけをしている。オムツの使用をさげ、可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。夜間オムツを使用している利用者も、昼間はリハビリパンツに換え、トイレに誘導している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排泄パターンや飲水量の把握に努めている。便秘予防の為水分補給や運動などの支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決めさせていただいているが、希望に応じて柔軟に対応している。	週に3回と入浴日は決めているが、利用者の意向や状況にあわせ、入浴日や時間を変更するなど柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者には強制せず、清拭などで清潔を保持し、状況を見ながら声掛けをし、入浴出来るように対応をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の状態を把握し、十分な睡眠がとれるよう利用者様にに応じて支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様が飲まれている薬の把握に努めている。受診ノートを作成し、変更や中止なども把握し症状の変化の確認、かかりつけ医への報告に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に応じた役割を持っていただけるような関わりを心掛けている。一人ひとりの趣味や楽しみごとを引き出せるような関わりに努めている。掃除・洗濯・食事の準備など共に行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の外出希望にも柔軟に対応している。こちらからも外出の提案をさせて頂き、散歩や買い物などの支援を行っている。	近くに大型スーパーや公園があり、散歩や買物に出かけることも多い。個別の外出にも柔軟に対応している。買い物外出時は、利用者の意向に沿って、お金の管理から支払まで、自由に楽しんでもらえるよう支援している。季節を肌で感じてもらえるよう、季節ごとの花見や散歩も働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理しておられる利用者様もおられ、希望や状況に応じて自由に使えるよう支援している。受け持ちの職員が出納帳に記録し管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には自由にかけただけできるよう支援している。ご家族からも手紙が届いたり、利用者様の書かれた暑中見舞いをご家族へ送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは定期的に飾りつけを変え、季節を感じていただけるよう工夫している。日々の掃除や換気、室温調節を行い、快適に過ごしていただけるよう心掛けている。	居間を囲むように居室、職員室、台所が配置され、常に職員の視野の中で生活できるようになっている。浴室へ続くスロープは濡れても滑らない素材が用いられ、入り口には分かり易くするために工夫された暖簾がかけられている。階段や壁には季節の飾りつけや、楽しそうな利用者の写真が飾られ、居心地のよい空間になるよう工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し、思い思いに過ごしていただけるよう心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、これまでご本人が使い慣れたものや好まれるものを持ってきて頂くようお願いしている。使い慣れた椅子や棚、お仏壇などご本人が居心地の良いような居室作りに努めている。	利用者や家族の意向に沿って、家具付きか、馴染みの筆筒などの家具を持参するかを選択出来る。また、二間続きの部屋もあり夫婦での利用も可能である。馴染みの品が置かれた部屋で、今までの生活習慣が継続できるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のできる力を理解し、自立支援に向けた関わりを心掛けている。トイレやお風呂を分かりやすく表示したり、居室の入り口に表札をつけたりと工夫している。		